

「トランスボーダー大学」を見据えた学習支援と多様性配慮の在り方を求めて

12月3日、図書館情報エリア支援室から小屋一平主任および筒井文也一般職員がクアラルンプールオフィスを訪れた。一行は、杉浦則夫オフィス長、岩本浩二副オフィス長、Tuan Azma 現地職員から本学海外拠点の活動やマレーシア日本国際工科院 (MJIT) との連携について説明を受け、また AIMS/TAG プログラムを利用して短期留学中の小倉舜君 (生物資源学類) に海外留学の実体験について聞き取りを行った。

今回の訪問は、学生の学習を支援するTA等のスタッフ、ラーニングコモンズなど大学図書館の機能強化の試み、さらに文化・宗教が異なる複数の民族が共生するマレーシアにおける学生宿舎や食堂、礼拝施設における多様性への配慮についての現地調査を目的としており、MJITのほか、本学の協定校であるマレーシア工科大学 (UTM) の図書館、学生部門、Siswa Jaya 学生宿舎、イスラミック・センター、教務部門、国際部門においてプレゼンテーションや聞き取りを行うと共に、互いの施策について情報交換を行った。今回持ち帰った知見を礎に、今後「トランスボーダー大学」の実務を担う者としての活躍が期待される。



筑波大学クアラルンプールオフィス前にて



Ahmad Bin Khalid 学生教育部長ほか
スタッフへのプレゼンテーションと情報交換



マレーシア・日本国際工科院
(MJIT) 外観



MJIT の図書館分館
(日本語学習関連書籍の書架)



マレーシア工科大学 (UTM) の
大学モスクとイスラミック・センター